

中国 宇宙ステーション「天宫」

爛柯山物語の新解釈

浙江省に有名な山水が多い。そのうちの一つに、衢県の南にそびえる爛柯山がある。少し前のことだが、友達グループで浙江省に行ったことがある。その時、爛柯山にどうしても行きたい人が何人かいて、行くことになった。これほど人気がある以上、この山には人を魅了する絶景か何かが無ければならぬのであるが、そんなものはなかった。皆が爛柯山を見たい理由は、他でもない、この山の名が、神話の故事にちなんでつけられたからだ。

南北朝時代、任昉の『述異記』という書物に次のことが記載されている。

“晋王質、山に入り樵を採る。二童子の対奕（囲碁）に見（あ）へり。童子、質に一物を与（あた）う。棗核の如く、之を食らい飢えず。局終わり、童子、指し示して曰く、‘汝の柯爛せり。’ 質、郷里に帰れば、己に百歳に及べり。”

この書『述異記』は任昉の著書でなく、後人による偽作の疑いが濃い、故事そのものは大変面白い。現在科学の観点から分析すれば、これを根拠のない出鱈目と切り捨てるわけにはいかない。



浙江省衢州市柯城区 爛柯山 青霞洞 碁石の椅子

この故事の主人公である王質が、山で一局の勝負を見終わると、柴刈り用の斧の柄が朽ち果て、家に帰ると、すでに百年経っていたのである。このような話は、我が国古代神話ではよく見られる、ありふれた形式であり、珍しいものではない。多くの神話故事からパターンを集約すると、“山中方（まさ）に七日にして、世上幾千年”の公式が導かれ、このもとに編集されているのである。それらの神話は爛柯山の話ほど有名にならなかっただけである。現在研究する価値ありとして、問題にしようとしているのは、“山中方に七日にして、世上幾千年”のこの類の公式である、果たして研究価値がある

だろうか。

答は、価値ありで、もろ手をあげて肯定したいところだ。特に、人類の宇宙飛行時代の幕が開かれた今日、爛柯山の話に新しい解釈を付け、再評価する必要がある。

『知識は力なり』の1961年第三期上に、ソ連物理学博士メスキルセが書いた『時間相対的検証』という論文が掲載された。作者は最新科学知見を引用して、時間相対的自然現象法則の客観的存在の証明を試みている。自然法則に基づけば、メスキルセは云う、“宇宙飛行士が二十五才の時に旅行に出発した。家には父母と妻、それに三歳の娘がいたとしよう。かれが五年の宇宙旅行を終えて地球に生還したとき、父母と妻はつとに逝去し、当時八歳の娘が、白髪蒼蒼として、古希に近い老婆になっていた。”これは仮定の話に過ぎないが、爛柯山の話と不思議なほどよく似ている。



爛柯山故事

未来の宇宙飛行においては、人が乗る飛行船はほぼ光速で宇宙空間を飛行するので、乗員にとっては、時間経過が遅くなり、数年で何光年かの宇宙空間を航行するようになる。地球は相変わらずのんびりと自転と公転をくりかえしているから、地上の人間からすると、時間の経過は結果的には早くなる。宇宙飛行で費やした数年が、地球上の何十年にも相当するわけだ。この時間の相対性は自然の法則であって、人間の意思では何ともならないのである。といっても、人間はいつまでも自然法則の思いのままに動かされ、無策で居るわけではなく、自然法則を把握し運用するようになることは間違いない。

現代科学者はすでに多くの方法を編み出し、自然法則をコントロールし、それを人類に役立てようとしている。時間相対性のこの法則においても、現代科学者はすでに方法を模索し始めている。例えば、長期睡眠方法である。宇宙旅行家の夫がひと眠りして目が覚めればもう数十年が経って、宇宙から帰ってきた時には、未だもとの若さにあるということだ。例えば、宇宙飛行船の技術が進歩して安全度が増せば、一家で旅行することも珍しくなく、星から星へと頻りに飛び回り、時間も短縮されるだろう。そうなれば互いの往来も迅速になり短縮されるだろう。こうなると相対性法則が人間に加えてきた足かせも順次取り除かれ、爛柯山の話が繰り返されることは、この世から永遠に消え去ることになるだろう。

【掲載当時の時代考証と秘められたメッセージ】

『爛柯山故事新解』ひとそえ

熱心な読者から「今も南方では竹が建築現場で使われているのでは？」との指摘が届きました。現地へ行く機会がないので確かめにくいのですが、竹の挽り効果の使い勝手のよさや価格の安さから竹の足場が続いている可能性は高いでしょう。2009年頃に日経新聞連載小説の『甘苦上海』（高樹のぶ子）には、竹の足場の下をすり抜けて部屋を訪ねる場面があり、違和感がなかった記憶があります。

今号も、童子から貰った棗核（ナツメの種）で「食之不飢」という一節にモノ不足、食糧不足の一端を感じ取ることも可能ですが、本論であろう「新解」については手に余ります。



京都 祇園爛柯

この故事は良く知られていて、とくに囲碁の世界では棋譜に名を残しているようです。日本ではどうかと調べてみると、京都三条に見つかりました。さすが京都と思わせる囲碁サロンの命名です。時の経つのを忘れてしまうという中国故事に倣ったにしては、1日分の席料が一般客でも1000円とありますから、ずいぶんと安上がりで精神世界の時空飛行ができるようです。

井上邦久

爛柯山故事新解 原文

浙江省有许多闻名的山水，其中有一座烂柯山，位于衢县以南。我曾见许多朋友到浙江去就一定要看看烂柯山。这是为什么呢？难道这座山上果真有什么迷人的风景不成？事实并不是这样。他们所以要看烂柯山，无非因为这座山是由于一个神话故事而得名的。

据南北朝时期任昉的《述异记》一书载称：

“晋王质入山采樵，见二童子对奕。童子与质一物，如枣核，食之不饥。局终，童子指示曰：汝柯烂矣。质归乡里，已及百岁。”

虽然《述异记》这部书未必是任昉所著，可能是后人伪托之作，但是这一段故事却很有意思。用现代科学的观点来分析，这个故事倒很像是科学幻想，具有相当的科学价值，不应该把它看成毫无根据的胡言乱语。

这个故事中的主人公王质，在山上只看完了一局棋，而砍柴用的斧头上的那根木柄就已经腐烂了，回到家里已经一百岁了。这种情形在我国古代大量流行的神话故事中，本来不算什么希奇。我们还可以举出更多的神话故事，都是以所谓“山中方七日，世上几千年”的公式为指导来编写的。不过那些神话故事都没有烂柯山的故事这么著名罢了。现在值得研究的问题，倒是在于这个所谓“山中方七日，世上几千年”之类的公式，究竟有没有科学意义？

回答这个问题，我想应该采取肯定的语句。特别是现在人类向宇宙飞行的序幕已经打开的时候，我们对于烂柯山的故事尤其必须进行新的解释。

最近出版的《知识就是力量》一九六一年第三期上，刊登了苏联物理数学博士梅希可夫斯基写的《时间相对性的验证》一文。作者引述了科学研究的最新材料，来证明时间相对性的自然规律是客观存在的。按照这个自然规律，梅希可夫斯基说：“假设某一宇宙飞行家出发旅行的时候是二十五岁，家里有父母妻子和一个三岁的女儿；当他作了五年的星际旅行回到地球上的时候，他的父母和妻子都已去世了，前来欢迎他的是他的女儿，但是她不是八岁的女孩，而是一位白发苍苍、年近古稀的老太太了。”这虽然是假想的故事，可是它同烂柯山的故事多么相似啊！

未来的宇宙航行中，因为载人的飞船是以接近于光波的速度向遥远的星际飞去，所以对于飞船上的人来说，时间就过得特别慢，几年的时间就能走许多光年的星际航路；而地球还是照老样子慢慢地自转和公转，所以对地上的人们来说，时间反而过得快了，在星际空间只飞行了几年的时间，地球上的人却过了大几十年。这个时间相对性的自然规律，当然不以人们的意志为转移；不过人们也决不能任凭自然规律来摆布，人类将毫无疑问地要进一步掌握和运用自然规律，而不至于束手无策。

现代的科学已经有许多新的方法，可以控制自然规律，使它为人类更好地服务。在控制时间相对性的这个规律方面，现代科学家也已经想出了一些办法。比如用长期睡眠的方法，将会使宇宙航行家的亲人一觉醒来就过了几十年的时间，等到亲人回来还没有老。又比如将来宇宙飞船进一步发展完善了，一家人都可以去飞行，甚至地球和其他星球之间的来往日益频繁，你来我往的时间更加迅速和缩短。这样人们就会逐渐减少以至消除时间相对性这个规律对人的支配作用，烂柯山的故事将永远不会重演了。